

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2年	2	選択
担当教員			
吉岡 秀輝			
C (商学部)	S (専門科目)	L0 (流通)	203 (中級科目)

授業のねらい (概要)	我が国の交通事業の現状と課題を理解させ、交通政策の根拠と課題、望ましいあり方について考察することで、交通問題の現状とその解決の方向性を経済学的な視点から考えられる能力を育てる。各輸送モードによる交通ネットワークの構築、海外各主要地域の交通インフラ状況、都市交通の課題、交通産業に纏わる諸条件や環境への対応について学ぶとともに、交通産業及びそれに関わる諸要素の関連性と交通が産業としての維持及び発展に必要な関連諸条件について学修する。
授業計画	<p>第1回 [遠隔] オリエンテーション 授業の進め方に関するガイダンス 交通の定義 予習 (時間) : 交通論は、どのような事柄を研究対象とするのかを考えておくこと。(120分) 復習 (時間) : 交通の定義、交通論の対象領域について整理しておくこと。(120分)</p> <p>第2回 [遠隔] 経済現象としての交通の意義 交通の本質/交通の意義と機能、交通サービスの需要と供給、高速道路料金無料化議論、経済現象としての交通の発生 予習 (時間) : 市場は需要と供給、そして商品から構成される。商品としての交通とは何かを確認しておくこと。(120分) 復習 (時間) : 商品の2形態、すなわちモノとサービスの特徴を把握し、交通サービスの諸機能を整理しておくこと。(120分)</p> <p>第3回 [遠隔] 経済のグローバル化に果たす交通の役割 わが国の各種輸送手段の輸送量実績/時系列的比較検討、モータリゼーションの普及、経済のグローバル化=超国籍化、グローバル化の推進要因、国際輸送の現状 予習 (時間) : モータリゼーションの意味を考えておくこと。(120分) 復習 (時間) : 貨物と旅客、国内と国際交通、外航海運と内航海運、国際貿易における海運の役割を認識しておくこと。(120分)</p> <p>第4回 [遠隔] 交通経済の基礎概念 交通の基礎概念/輸送量の単位 (トン・キロと人キロ)、運賃負担力、交通の費用と便益、経済現象としての交通の発生 予習 (時間) : 経済行為としての交通が発生する原因を考えておくこと。(120分) 復習 (時間) : 輸送量単位としてトン・キロ、人キロが使われる理由を理解すること。(120分)</p> <p>第5回 交通の生産要素 交通の基本的構成要素/交通路、ターミナル、運搬具、船舶の種類、内航海運と外航海運 予習 (時間) : 船舶の種類を列举し、それぞれを定義できるようにしておくこと。例一漁船とは、水産物の採捕を目的とする船舶。(120分) 復習 (時間) : 交通サービスの生産要素とは何かを確認し、それらがどのように機能を果たしているかを知ること。(120分)</p> <p>第6回 コンテナリゼーションによるグローバル・ロジスティクスの変化 コンテナリゼーションと港湾物流/コンテナの定義と起源、コンテナ化前史、コンテナ化の推進 予習 (時間) : なぜコンテナおよびコンテナ輸送が生まれたのか、その必然性を考えておくこと。(120分) 復習 (時間) : コンテナ輸送の発展の歴史、日本における普及の状況、日米を比較し理解する。(120分)</p> <p>第7回 [課題] 内陸港湾が地域経済に果たす役割 インランド・デポの役割と変遷/草創期のインランド・デポ概念、インランド・デポの成長発展期、AEO制度の導入とインランド・デポ、グローバルリゼーションとローカリゼーションの融合 予習 (時間) : 「ローカリゼーション」という言葉から連想されるイメージと、交通との関係を考えておくこと。(120分) 復習 (時間) : インランド・デポの意味を理解し、地域経済の発展と交通の関係を歴史的にとらえておくこと。(120分)</p> <p>第8回 国際輸送と航空 国際輸送の現状/世界の航空産業、概観、国際輸送における航空の位置付け、第二次世界大戦後の民間航空サービスの変遷 予習 (時間) : ビジネスとしての航空が発展し始めたのはいつ頃からなのか、そしてなぜ発展したのかを考えておくこと。(120分) 復習 (時間) : 国内線・国際線輸送量の合計でアメリカの航空会社が上位を占めている理由を理解しておくこと。(120分)</p> <p>第9回 国際航空を支配する法体制 国際航空の法体制/シカゴ会議とシカゴ条約、シカゴ会議における米英の対立、「5つの自由」の協定、IATA、バミューダ協定</p>

第10回	<p>予習（時間）：第二次世界大戦後の国際民間航空は、いかなる体制のもとに置かれてきたかを理解しておくこと。（120分）</p> <p>復習（時間）：シカゴ会議における米英対立と、今日のアメリカの「オープンスカイ」政策の関連を把握すること。（120分）</p> <p>日米二国間航空協定交渉の変遷</p> <p>日米航空協定／二国間航空協定の構成と内容、わが国の航空輸送略史、日米航空摩擦の根元</p>
第11回	<p>予習（時間）：日米航空協定の何が問題であったのかを調べておくこと。（120分）</p> <p>復習（時間）：日米航空協定における「不平等」と、それが解決した結果、何がもたらされたのかを理解しておくこと。（120分）</p> <p>〔課題〕国際航空の自由化と二国間航空協定</p> <p>国際航空自由化の障壁／二国間体制、国内の規制政策、国営企業と補助金、GATT（現WTO）原則の限界</p>
第12回	<p>予習（時間）：最恵国、内国民待遇の意味を調べ、それが航空協定とどのような関連を有していたかを考えておくこと。（120分）</p> <p>復習（時間）：なぜ自由化が望まれるのか、逆に保護・規制がなぜ必要なのか、両者の相違を理解しておくこと。（120分）</p> <p>航空規制と規制緩和の哲学</p> <p>アメリカにおける航空規制と規制緩和／アメリカ航空貨物業界の事例、規制緩和論の台頭、規制緩和の経緯、規制下の航空貨物業界、規制緩和下の航空貨物業界、流動的な航空貨物業界</p>
第13回	<p>予習（時間）：アメリカの航空貨物業界でいち早く規制緩和が行われた理由を把握しておくこと。（120分）</p> <p>復習（時間）：交通規制の緩和は事故の増大につながる、とよく言われるが、その真偽をアメリカの事例から考察すること。（120分）</p> <p>〔課題〕アメリカにおける航空規制緩和後の状況変化</p> <p>規制緩和後のアメリカ航空業界の再編過程／規制緩和前後の旅客航空の変化、淘汰の「嵐」、再編の様相</p>
第14回	<p>予習（時間）：規制緩和は、当然、競争増大、優勝劣敗をもたらす。そのメリット、デメリットを調べておくこと。（120分）</p> <p>復習（時間）：アメリカにおける淘汰の状況を整理し、日本への影響を調べておくこと。（120分）</p> <p>航空輸送と海上輸送の融合</p> <p>シー・アンド・エア輸送／国際輸送の成長と輸送システム、輸送企業の類型、わが国におけるシー・アンド・エア輸送の発展、シー・アンド・エア輸送とフォワーダー</p>
第15回	<p>予習（時間）：シー・アンド・エア輸送とは、どのような輸送形態をいうのかを確認しておくこと。（120分）</p> <p>復習（時間）：複合一貫輸送との関連で、シー・アンド・エア輸送を捉え、フォワーダーの役割を知っておくこと。（120分）</p> <p>航空輸送業界の将来展望</p> <p>総括／航空輸送産業の現状と今後の展望、航空企業のアライアンス（提携関係）、LCC（格安航空会社）の出現、貨物専門航空会社の動向</p> <p>予習（時間）：航空の今日的状況としてLCCの出現とアライアンスの結成が挙げられる。これら状況が発生した要因を調べておくこと。（120分）</p> <p>復習（時間）：LCCを抜きにして今日の航空は語れない。アライアンスを含めて、今後の展望を試みてほしい。（120分）</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<p>1. 経営学の専門的知識を持ち、組織全体を見渡す能力</p> <p>2. 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を多面的に理解し、活用できる能力</p> <p>【身に付くスキル】</p> <p>グローバルな視野・地域力</p>
到達目標	<p>①経済現象としての交通発生の原理を説明できる。</p> <p>②交通の基本的構成要素について理解し、説明できる。</p> <p>③海運と港湾運送の意義を理解できる。</p> <p>④アメリカにおける航空規制緩和の経緯とその影響を理解できる。</p> <p>⑤グローバル交通の事例およびその問題点を指摘し、分析できる。</p>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	<p>小テストを随時、実施する。採点后、答案を返却して解説する。</p> <p>授業の理解度を高めるための課題を出す。</p>
履修上の注意	<p>必要に応じて資料プリントを配付する。散逸しないようにファイルすること。また、しっかりとノートを取ることが重要である。貿易論は関連事項が多いので、履修しておくことが望ましい。</p>
成績評価の方法・基準	<p>学期末に定期試験（筆記試験）を実施する。小テストを随時、行う予定でいる。また、レポートも課す。定期試験60%、小テスト20%、学修意欲20%の割合で総合評価する。</p>
教科書	<p>物流新時代とグローバル化 ISBN番号：978-4-7888-0719-8 著者名：吉岡秀輝 出版社：時潮社 発行年：2017年 価格：2800円 備考：教員用献本必要</p>
参考書・教材	<p>【参考書】新流通・マーケティング入門 著者名：金弘錫・美藤信也・吉岡秀輝・田中敬幸 出版社：成山堂書店 発行年：2017年 価格：2800円</p>
備考	<p>講義科目 2020年度は、7、11、13回を課題研究として学習する。</p> <p>第7回 当初シラバスの「授業時の講義内容」に充当する資料と「授業時の指示」に該当する資料の配信、および作業指示をmellyなどで行い、調査結果の小レポート作成や当初シラバス通りに実施する。これらの指示確認を5、6回の対面授業で行う。全体で330分の学習を想定している。</p> <p>第11回 第7回同様の実施として、指示確認を9、10回の対面授業で行う。全体で330分の学習を想定している。</p> <p>第13回 第7回同様の実施として、指示確認を12、14回の対面授業で行う。全体で330分の学習を想定している。</p>

	「成績評価の方法・基準」欄「定期試験」は「最終レポート」で代替する。実施方法の評価と評価基準は第1回で概要を授業中およびmellyで告知し、詳細を第11回で同様に告知する。
教員との連絡方法	メール、オフィスアワー